竜串（たつくし）海岸の奇岩

＜有田　正史・須藤　定久＞

四国南西端の足摺岬の西北西約15kmの所に，奇岩で知られた竜串海岸がある．この付近は古第三紀の堆積岩が分布するが，竜串海岸周辺にのみ新第三紀の極浅い海に堆積した砂岩・泥岩が分布し，広い海食台にさまざまな奇岩が立ち並んでいる．付近には南国の海が広がり，最初に指定された海中公園でもある．ここで見られる珍しい地層や化石を紹介してみよう．（詳細は本文p.19-26をご参照下さい）

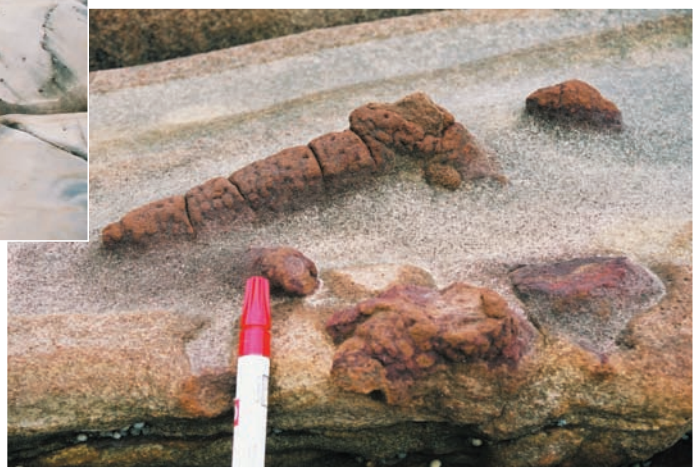
1. 竜串海岸の海食台
広い海食台が広がり，あちこちに奇岩が見られる．

2. 急斜する地層
新第三紀の地層であるが北に急傾斜している．風食・波食を受けた地層は蜂の巣構造を示す．

3. 蜂の巣構造
転石に見られる見事な蜂の巣構造．画面の左右が約1.5m．

4. 大竹小竹
節理が入った砂岩の断面は巨大な竹が横たわっているように見える．

5. 蛙の千匹連
砂岩中の褐色のノジュールが蛙の大群のようにみえる.



6. 蛙の正体
褐色のノジュールを観察すると, 表面に砂団子が見える. 甲殻類の巣穴や食餌の跡などがノジュールとなったようだ.

7. この溝な〜に?
カーテンの裾が連想されることから「しぼり幕」と呼ばれている. 砂岩中のコンボリュート・ラミネーションが風化により浮かび上がったものと思われる.

8. 兜石
砂岩中の人頭大のノジュール. 武将の兜に似ていることからこう呼ばれる. 甲殻類の巣穴がノジュールとなったものであろう.